

2022年3月期第2四半期 決算説明会 主要質疑

Q.決算説明資料2ページにある今後の主要リスクとはどのようなものか

A.原燃料価格の高騰リスク、中国の電力制限による中国 PVDF 工場の稼働低下リスクや中国産フッ素原料の日本への輸入が滞るリスクを、一定の範囲で織り込んでいる。

Q.PVDF の数量であるが、次の本格的な増設の 2024 年夏まで、顧客の要求する数量に対応できるのか

A.いろいろな処方改良など生産性を上げていく取り組みは行っているが、足りていない。ある程度の割当制は実施せざるを得ない。

Q.シェールオイル・ガス掘削用フラックプラグ市場の規模、分解性プラグの割合は。今回 PGA は下方修正したが、どのような要因か

A.油価の高い状態が続いているが、シェールオイル・ガス掘削市場はコロナ禍以前の状態にまで戻しておらず、生産者が慎重な立ち上げをする中、先行き不透明な状態である。フラックプラグの使用量は、コロナ禍以前の年間 60 万本程度に対して、現在は 40 万本程度であるとみている。分解性フラックプラグの割合は 10%程度と推測する。非 PGA の分解性プラグ開発に遅れがあること、市場の立ち上がりが遅れていることなどから、今年度下期の販売目標を下方修正した。

Q.PPS の収益性重視とはどういう意味か

A.今までは、大きな販売量が見込める一方、価格対応の要求が厳しく十分な収益が上げられない用途もあったが、今後は当社レジン、提携先のコンパウンド技術をもって特長づけされ、より高い収益が期待できる用途を拡大していく意向である。

Q.PVDF はフォーミュラ制を導入したとのことだが、どのくらいの比率か。また PVDF の原料は高騰が続いているが、この動向をどのように見ているか

A.フォーミュラ制の対象となる売上は概ね半分くらいのイメージである。原料高騰については一時期に比べると落ち着いてきたという認識であるが、供給元との契約など、まずはきちんと確保できる体制づくりに努めていく。

Q.期初の資料を見ると PGA は 2023 年度の黒字化とあるが、この計画に変更はないか。また、シェールオイル・ガス掘削向け以外の用途開発が必要ではないか

A.商品開発に若干の遅れが出ているがキャッチアップすべく取り組んでおり、黒字化のスケジュールについて大きな変化はない。2011 年の PGA プラント稼働より 10 年いろいろな用途の検討をしてきたが、現在はこのフラックプラグ用途に注力しているという現状である。研究開発では新用途の開発にも取り組んでいる。

以上